

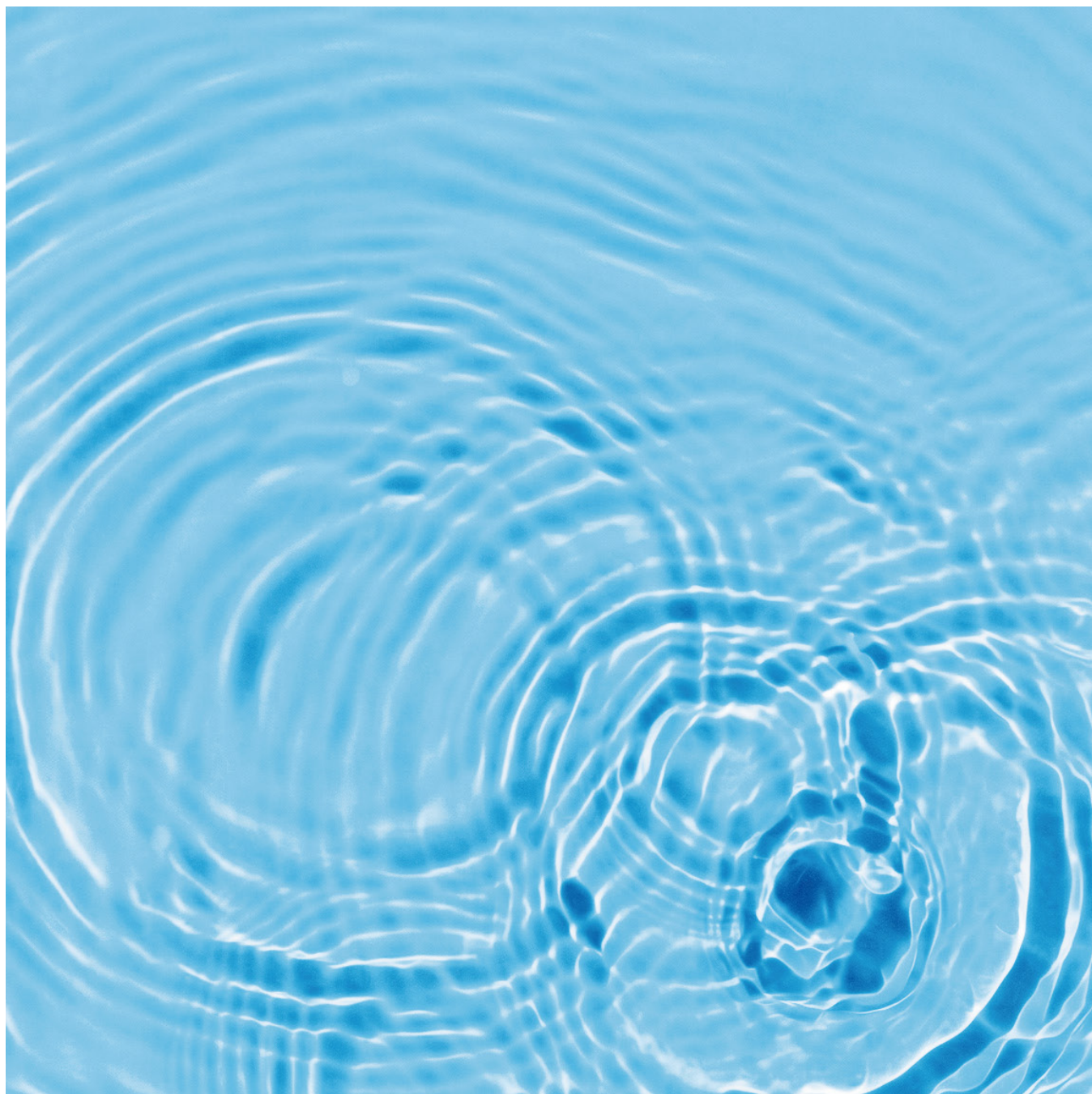
# 公立 | 静岡文化芸術大学

SHIZUOKA UNIVERSITY OF ART AND CULTURE

SUAC  
2027

## 大学院案内

文化政策研究科 修士課程 / 文化政策専攻  
デザイン研究科 修士課程 / デザイン専攻





さらなる2年で拡がる  
「文化」「デザイン」の未来像。

## 創造の時代を拓く 高度な専門家への道

2000年に開学した静岡文化芸術大学は、さらなる飛躍と社会的使命を果たすため、4年後に大学院を開設しました。新たな創造の時代を拓く思考力と高度な実践力を持つ専門家の育成、それが本学の大学院が目指す役割です。近年、「プロフェッショナル」という言葉が輝いています。その人の仕事の結果だけでなく、仕事ぶりへの感動もこめて語られます — とくにその姿が、相互依存を深める地球社会の構成員にふさわしい生き方をも示唆している時に。すぐれた文化やデザインには、モノやコトをつなぎ、明るくアヤを織りなす社会をつくる力があります。そのような力を、たゆまぬ研究心で伸ばしつづける人こそ、この大学院が鍛える「仕事人」です。産業革命以来、人類が手にした多くの技術は強力ではありますが、まだ粗野なままです。それらの力が交わる社会を、環境とともに輝かせるための文化とデザインが問われています。本学専攻課程では、個性も経験もゆたかな教員たちが連携しつつ個人指導にあたります。この冊子で、地域と世界をともに見つめ活躍する「仕事人」となる夢をふくらませてください。

静岡文化芸術大学 学長 佐々木 雅幸



# 文化政策専攻 文化政策研究科

| 修士課程（2年）定員10名 |

## 文化の力を形にし、社会に提供できる人材を

人間社会において、文化は人を動かし、束ねる大きなエネルギー源です。また、様々な示唆と知恵を人間に与えてくれる集合体でもあります。こうした文化の力を、人間の未来社会のために形にする営みが「文化政策」とも言えます。私たちは、文化・芸術創造や組織運営のあり方を探求し、「文化政策」をプロジェクトや政策として提案できるプロフェッショナルな人材を育成します。

### ◎アドミッション・ポリシー

文化政策研究科では、以下に掲げるいずれかの意欲、知識、能力をもった人材を国内外から広く受け入れます。

#### ◎国内の学士課程卒業生

学士課程での多様な研究成果をふまえ、社会の様々な課題解決に向け、文化や芸術の視点を持って研究を行い、将来、高度専門職業人としてそれを実践していく意欲と専門知識、及び、多様な学問分野の国際的研究成果を応用することができる学習・研究能力。

#### ◎国内の社会人

社会人としての実務経験を通して得られた問題意識にもとづき、社会の様々な課題解決に向け、文化や芸術の視点を持って研究を行う意欲、及び、明確な研究計画とそれを推進する管理能力、その成果を活かして実践していく能力。

#### ◎諸外国の学士課程卒業生

諸外国の学士課程での多様な研究成果をふまえ、社会の様々な課題の解決に向け、文化や芸術及び国際比較の視点を持って研究し、将来、高度専門職業人としてそれを実践していく意欲、専門知識、日本語能力、及び、多様な学問分野の国際的研究成果を応用することができる学習・研究能力。

#### ◎諸外国の社会人

諸外国における実務経験をふまえ、社会の様々な課題の解決を文化や芸術及び国際比較の視点を持って研究を行う意欲、専門知識、日本語能力、及び、多様な学問分野の国際的研究成果を応用することができる学習・研究能力。

## 現場からの学びを重視した実践的なカリキュラム

文化政策研究科では、専門的な文献研究だけでなく、実践の場でのフィールドワークや調査を重視し、文化・芸術の持つ可能性を可視化・具体化できる人材を育成していきます。院生は以下の3つの研究専門領域から1つを選び、領域横断的で学際的な研究を教員の指導のもと展開していきます。

※文化政策研究科は、2010年度からAAAE（Association of Arts Administration Educators）の正会員となっている大学院です。

### Arts and Cultural Management

#### アーツアンドカルチュラル マネジメント

楽団、劇団、美術館などの民間および公立の施設運営、行政の文化政策、文化産業、文化イベントなどのあり方や可能性に関する研究を行います。

### Regional Policy and Management

#### 地域政策マネジメント

まちづくりや地域活性化、コミュニティ政策、自治体改革、行政評価など、未来の地域に必要な活動や政策のあり方、可能性に関する研究を行います。

### Glocal Studies

#### グローバルスタディーズ

グローバル化の影響で、世界的規範や法、地域社会にどのような変化が生まれているのか、そして未来の持続可能な社会のあり方や可能性に関する研究を行います。

## 進路実績（抜粋）

- (公財)掛川市生涯学習振興公社
- (公財)静岡県舞台芸術センター（SPAC）
- (公財)豊田市文化振興財団
- (公財)名古屋国際センター
- (公財)浜松国際交流協会（HICE）
- (公財)浜松市文化振興財団
- (大)静岡文化芸術大学
- (学)八戸工業大学
- (特非)国際舞台芸術交流センター（PARC）
- (特非)グッドネーパーズ・ジャパン
- (株)大阪市開発公社
- サントリーパブリシティサービス(株)
- 四季(株)
- 静岡鉄道(株)
- 浜松ホトニクス(株)
- (株)北国新聞社
- 静岡県庁
- 静岡市役所
- 浜松市役所
- 【進学】名古屋大学大学院博士課程
- 【進学】一橋大学大学院博士課程

## 修了生の声

### 舞台を支える視点が、地域の文化を動かしていく。

SPAC—静岡県舞台芸術センター（制作） 村上 瑛真 さん  
文化政策研究科 2024年度修了

**入学の動機** 学部時代の卒業論文に不完全燃焼の思いが残り、もう一度研究に向き合いたいと考えたことが進学の原因でした。公立文化施設や地域文化について、より丁寧に検証する思考力を身につけたいという思いもありました。少人数のゼミで指導教員から密度の高いフィードバックを受けられる環境は、自分の問いを一つずつ深め、曖昧な部分にも粘り強く向き合ううえで最適でした。研究を通して「構造を捉える視点」と「考え続ける姿勢」を培えたことが、大学院に進んで良かったと感じています。

**現在の仕事への活かし方** 舞台公演の制作や広報物の編集に携わる中で、大学院で培った「組織の構造を捉える視点」や「多面的に調べ、根拠を持って判断する姿勢」が生きています。多くの関係者が関わる制作現場では、役割同士の関係性を理解し全体を把握する力が求められます。また、広報業務においても、研究で身につけた情報整理やリサーチの思考がそのまま役立っています。



## カリキュラムの特徴

### 01

#### 基礎科目

修士論文の構想づくりを進めるための「文化政策研究の方法」と、修士論文の仮説をフィールドワークや現場での調査を通して複数の教員と共に考察していく「アクションリサーチ基礎」「リサーチワークショップ」があります。

### 02

#### 基幹科目

各分野の概論的な知識を学び、学際的な系譜を学ぶための「領域横断科目」と、「アートアンドカルチュラルマネジメント」「地域政策マネジメント」「グローバルスタディーズ」に関係した専門的な内容を学ぶ「専門科目」があります。

### 03

#### 演習科目

演習Ⅰ(1年目)と演習Ⅱ(2年目)から構成されています。演習Ⅰは異なる教員による2つを履修し、領域横断的に学びます。演習Ⅱはさらに1名の教員の本格的指導のもと、論文を完成させていきます。また研究科内での発表会の機会もあります。

### 03

#### 修士論文

#### 演習科目

- 演習Ⅰ
- 演習Ⅱ

### 02

#### 基幹科目

- アートアンドカルチュラルマネジメント専門領域の科目
- 地域政策マネジメント専門領域の科目
- グローバルスタディーズ専門領域の科目

### 01

#### 基礎科目

- 文化政策研究の方法
- アクションリサーチ基礎
- リサーチワークショップ

## 修士論文(例)

- バリの文化政策と舞踊家の語りにもみるレゴン舞踊様式の確立と継承
- 地方都市における洋楽受容と日露戦争—鹿児島県を中心に
- 地域志向型劇団の可能性と課題—地域との関係性に注目して—
- 浜松地域における中小ピアノメーカーの軌跡—アトラスピアノ製造を事例に—
- 呉市例大祭の動態的研究—歴史的変遷と社会的役割の変化—
- バングラデシュのナショナル・アイデンティティ形成
- 中国人アートマネジメント人材のキャリア—日本留学経験者に着目して—
- 芸術政策を巡る合意形成とローカルアートエージェンシー—ポートランド市の芸術税とパブリックアートプログラムに着目して—
- 静岡県浜松市の在日ブラジル人第2世代のメンタルヘルスをめぐって
- トランスナショナルなコンテンツを持つ可能性—日本バラエティ番組に関する対立と調和—
- An Ethnographic Study of Aging Japanese Brazilians in Japan: Reimagining Home Abroad through the Practices of Saudade
- クラシック音楽祭におけるオーセンティシティの形成と変容—木曾音楽祭の事例から—

※修士論文は静岡文化芸術大学学術リポジトリをご参照ください。



# 文化政策研究科教員紹介

\*は修士論文の研究指導教員

▲は2027年3月で退職予定

■は2028年3月で(定年)退職予定 以下50音順

## 石坂 貴美 准教授\*

専門：国際開発/地域研究(アジア)

JICA海外協力隊、国際NGO勤務、個人コンサルタントなどを経てアジアをフィールドに人々の暮らしを守るセーフティ・ネットについて研究。農村、女性グループ等を対象に調査を実施。大学院では「NPOと市民社会」を担当。大学院生の研究テーマに沿って、市民セクターの社会的役割について考察を行います。

## 内尾 太一 准教授\*

専門：文化人類学/多文化共生論

東日本大震災のエスノグラフィで博士号(国際貢献)を取得。主著に『復興と尊厳』(2018)、訳書にM・ローゼン『尊厳』(2021)がある。災害や多文化共生をテーマに、困難に直面した人々と共にあるための研究の可能性を探索。

## 梅田 英春 教授\*■

専門：民族音楽学

インドネシア、特にバリ島の芸能、またインドネシアの文化政策と芸能の研究を行う。主な著書に『バリ島の影絵人形芝居ワヤン』(2020)、『バリ島ワヤン夢うつ』(2009)など。日本音楽学会、東洋音楽学会、日本文化人類学会等に所属。

## 奥中 康人 教授\*

専門：音楽学(近現代の日本の音楽史)

近代日本の音楽文化を調査・研究。おもな著作に『国家と音楽伊澤修二がめざした日本近代』(2008)、『幕末鼓笛隊土着化する西洋音楽』(2012)、『和洋折衷音楽史』(2014)など。日本音楽学会、東洋音楽学会に所属。

## 加藤 裕治 教授\*

専門：文化社会学/メディア論

文化社会学の観点から、メディア・映像文化と社会との関係を研究しています。メディアやイメージによって、私たちの認識や行動、日常生活がどのように変化したのかという、人や社会の側に関心があります。ただし、その前提として、メディアや映像内容への理解を深めることは不可欠です。

## 佐藤 良子 准教授\*

専門：舞台芸術政策論/地域文化振興論

音楽や舞台芸術分野の活動や人材育成に係る政策・制度を中心に研究。国・自治体による芸術文化への支援や文化施設等の施策の構造的把握とその根拠について、理論と実際の両面から考察します。

## 塩見 佳也 准教授\*

専門：憲法学/行政法学

国家(法規制)と市場(営業の自由・契約の自由)の関係の法的構成という観点から、憲法・行政法理論を研究。公民連携まちづくりや公共施設のPFなど現代日本の具体的な事例も研究している。日本公法学会、日本法哲学会等に所属。

## 鈴木 浩孝 教授\*

専門：応用ミクロ経済学/産業組織論

寡占市場における企業間の水平的競争や垂直的取引について、応用ミクロ経済学の観点から研究を行っています。修士の研究指導は、数式を用いたモデルにより企業や消費者の行動を分析し、市場を有効に機能させるための制度や政策のあり方を理論面から検討する、という形で行います。

## 上山 典子 教授/文化政策研究科長\*

専門：西洋音楽史/音楽文化論

専門は西洋音楽史・文化史で、近代ヨーロッパにおける音楽祭の成立と展開を中心に、音楽文化が社会や都市の文化環境の中でどのように形成・発展してきたかを研究しています。院生には、芸術文化の歴史的理解を基盤に、その社会的役割や文化政策との関係を探求し、文化現象を制度的観点から分析する研究を指導します。

## 曾根 秀一 教授\*

専門：経営学/経営戦略論/企業史

企業や産業の存続をテーマに理論・実証の両面から国際比較研究を行っています。著書に『老舗企業の存続メカニズム』(2019)、『日本のファミリービジネス(第2版)』(編著、2026)など。組織学会、日本経営学会、ファミリービジネス学会等に所属。

## 高島 知佐子 教授\*

専門：アートマネジメント/文化産業

持続性の視点から伝統文化を担う組織、産業の研究をしています。近年は人材育成等の視点から劇場の研究にも取り組んでいます。研究指導では、質的調査を主にした芸術団体・活動の長期的な継続に関する研究であれば、営利・非営利、芸術ジャンルは問いません。

## 武田 淳 准教授\*

専門：開発人類学/環境社会学

専門は開発人類学で、近年は「コーヒーと気候変動」をテーマにしています。温暖化の影響を受ける生産現場で何が起きているのか、バブアニューギニアとコスタリカを対象に研究しています。国際協力、途上国社会、環境問題に関心がある方、フィールドワークに基づく研究を行いたい方は受け入れ可能です。

## 田中 啓 教授\*■

専門：行政学/地方行政財政/政策評価・行政評価

民間シンクタンクを経て2004年に本学に赴任。評価の理論・手法を研究する一方、中央省庁や自治体における評価の実践にも深く関わる。自治体の行政財政改革審議会等を歴任。著書は『自治体評価の戦略』(東洋経済新報社)など。

## 谷川 真美 教授\*▲

専門：現代美術/芸術学

大学院では、美術作品や美術家など美術を中心とした文化・芸術についての特性と美術館・博物館などとの関係、美術にまつわる制度、社会や人々との関係などについて考えます。本学大学院での研究テーマとしては扱いませんが、美術史や美術作品そのものについての知識は研究上の基礎として必須です。

## 田ノ口 誠悟 講師\*

専門：舞台芸術論/演劇・劇場史/劇場文化

フランスを中心に、西洋の戯曲や舞台演出、演劇環境、演劇制度の特色を日本への影響も視野に入れ分析しています。フランス語戯曲の翻訳もしています。大学院では、演劇作品や劇場制度にまつわる基礎資料(俳優の証言、演出ノート、劇場運営記録など)の丁寧な読解に特に力を入れて指導を行います。

## 永井 聡子 教授\*

専門：舞台芸術論/演劇・劇場史/劇場運営論

専門は演劇・劇場史。博士(工学)。先駆的単著『劇場の近代化』(思文閣出版)やケンブリッジ大学出版局、近著の出版等、日本演劇史を国際的視点から再定義。公的な外部評価委員長を歴任する傍ら、舞台芸術プロデューサーの実践知を次世代へ還元。理論と現場を高度につなぐ『生きた舞台芸術論』を通じ、文化政策を担う人材育成に邁進している。

## 西田 かほる 教授\*

専門：日本近世史(宗教史、女性史)

日本近世の宗教者の身分や組織について研究しています。特に、中部地域の神職や神子などの民間宗教者を研究対象としてきました。研究指導では、史料に基づき、多角的な視点からの分析や解釈を行う歴史学的な思考を養うようにします。また、フィールドワークとして史料調査を行います。

## 野島 那津子 准教授\*

専門：医療社会学/福祉社会学/社会的排除

主に質的方法を用いて、医学的にも社会的にも認められにくい病を生きる人々の経験や、「給付金のたかり屋」言説を研究。病者・障害者の語りや生活を支える物質的基盤、社会的排除のプロセスに関心がある。研究指導では、社会学の理論と方法に基づき、各自が自身の問題関心を研究として発展させることを目指す。

## 藤井 康幸 教授\*■

専門：都市・地域計画/まちづくり/創造都市

総合建設会社と民間シンクタンクを経て現職。米国認定都市プランナー(AICP)として米国をはじめとする海外にネットワーク。最近の関心は、個性的で魅力ある都市、持続可能な都市、都市・地域にかかる計画と政策の領域。

## 宮崎 千穂 准教授\*

専門：歴史学/医学史/異文化交流史

主に18・19世紀の異文化交流史を、旅と病の関係、疾病のありよう、医学・薬学のあり方に着目して研究している。また、19世紀・20世紀の日本の知識人たちにとっての「シルクロード」の解明も目指している。

## 森山 一郎 特任教授\*▲

専門：経営学/マーケティング論

マーケティング、地域ブランディング等について研究しています。企業での実務経験もふまえて、事業者の方たちがどうすれば顧客の支持を得られるかを実践的に考察するよう心がけています。理論やフレームワークを理解したうえで、討議を通じて問題の所在やその構造を検討していくというスタイルで指導します。

## 横田 秀樹 教授\*

専門：第二言語習得/心理言語学/言語学

理論言語学にもとづく第二言語習得、外国語指導の研究を行っています。特に第二言語習得を困難にさせる要因を特定し、その結果を外国語教育に応用することを目指しています。研究指導では、英語の第二言語習得や外国語としての日本語教育について、コーパスのデータ分析や実証実験の指導を行います。

## 四方田 雅史 教授\*

専門：社会経済史/産業史

専攻は経済史・産業史・経営史で、特に日本とアジアの比較経済史から制度・文化と経済成長の関係を研究。学位は博士(経済学)。日本学術振興会特別研究員、早稲田大学政治経済学術院助教を経て現職。社会経済史学会、経営史学会等に所属。

◎ 研究内容が本研究科のカリキュラムに適合しているかなどについて、出願前に入試室を通して、希望指導教員に相談することができます。

※2026年度に在籍している教員を掲載しています。



# デザイン専攻 | 修士課程 (2年) 定員10名 | デザイン研究科

社会を見据え、新たなデザインを探求する。

いまデザインは、深く社会にかかわり、問題を美しく解決するための方法として大きく期待されています。人間や社会、地球環境に対する深い造詣とモノづくりへの情熱をベースに、企画立案能力から実務的設計能力まで、これからのデザインプロフェSSIONALに必要な専門知識と応用能力を高め、社会の要請に応える人材を養成していきます。

## ◎アドミッション・ポリシー

デザイン研究科では、以下のような意欲、知識、能力をもった人材を国内外から積極的に受け入れます。

- ◎専門分野における知識や造形力をさらに深めたい人
- ◎国際的・学際的な視点で、デザイン提案や理論の創出を求める人
- ◎研究・制作活動を行う専門知識と語学力を持ち、その成果を社会に向けて発信できる人
- ◎社会人としての実務経験を通して、明確な研究計画と研究成果を社会で実践していく構想を持つ人

## 研究分野

高度情報化、循環型社会への転換、そして高齢化の進展など、大きく変化する時代環境にあって、デザインに要請される内容は多様化し、デザイナーには専門的な能力が幅広く求められるようになってきました。デザイン研究科では、そのような社会的要請に応えるために、皆さんがこれまでに身につけたデザインあるいはその他の分野の専門性をベースにして、より高度なデザインの力を磨くための実践的な研究の場を提供します。

製品デザイン  
立体造形 プロダクトデザイン  
鍛金 デザイン方法論  
彫刻 パブリックデザイン 地域デザイン  
金属造形 インダストリアルグラフィックス 社会・医療システムデザイン  
クラフトデザイン ファインアート 産業デザイン振興 地域産業デザイン  
デザインマネジメント 社会デザイン  
パッケージデザイン 地域連携  
ブランド戦略 産学官連携 エルゴデザイン  
VI 計画 感性マーケティング手法 生理人類学 デザイン論  
商品イメージ戦略 人間工学

教育工学  
e-ラーニング グラフィックデザイン  
Web ベースラーニング  
キネマティクス ヒューマンインターフェイスデザイン  
CG アニメーション Web デザイン インタクションデザイン  
デジタル映像表現 モーショングラフィックス  
映像企画演出 スケッチング CAD デジタル造形  
音楽情報科学  
メディアアート 感性情報処理  
HCI

インクルーシブデザイン  
建築人間工学 ユニバーサルデザイン  
建築構造計画  
建築安全計画 構造デザイン  
建築計画 建築デザイン  
環境・設備デザイン 建築設計 建築実務  
ランドスケープデザイン 空間デザイン 都市設計  
都市デザイン 都市計画

## 進路実績 (抜粋・50音順)

- 愛知県庁
- (株)GKテック
- (株)電通
- (株)ボックス
- 旭化成ホームズ(株)
- ジェイアール東海建設(株)
- (株)乃村工芸社
- 三井デザインテック(株)
- (株)一条工務店
- (株)シャンソン化粧品
- (株)博報堂プロダクツ
- 三菱地所レジデンス(株)
- 運城幼児師範高等専科学校 (中国、教員)
- GTS協同組合
- 浜松市役所
- 三菱電機住環境システムズ(株)
- 柏木工(株)
- (株)セガ
- 林テレンプ(株)
- (学)トキワ松学園 横浜美術大学 (教員)
- カワサキモーターズ(株)
- ダイハツ工業(株)
- (株)日立建築設計
- 【進学】筑波大学大学院 (博士課程)
- コイズミ照明(株)
- チームラボ(株)
- 富士通(株)
- (株)産業編集センター
- 中央コンサルタンツ(株)
- ブラザー工業(株)

## 修了生の声

触れる感性が、デザインの可能性をひらいていく。

カワサキモーターズ株式会社 (CMFデザイナー) 小林 遥伽さん  
デザイン研究科 2024年度修了

**入学の動機** 学部で染織を学ぶ中で、技法や素材への理解をさらに深めたいという思いが強まり、大学院進学を決めました。染織表現を突き詰めるには、時間を確保して研究に集中できる環境が必要だと感じていたためです。学内にギャラリーがあり、作品を発表しながら研究を進められる点も魅力でした。染織の技法を体系的に掘り下げ、作品としてより高い質を目指したいという思いが、進学を決めた理由です。

**現在の仕事への活かし方** 大学院では染織を中心に学び、色と素材に丁寧に向き合う姿勢を身につけました。狙った色を出すための配合調整や煮込み時間の調整、素材による発色の違いなど、試行錯誤を重ねてきました。こうした色や素材を深く観察する力は、現在のCMFデザイン(※)業務に直結しています。色板や素材サンプルを見る際の感覚や、質感と色の組み合わせが生む印象の分析など、大学院で培った経験が仕事の基盤になっています。



※CMFデザインとは、色 (Color)、素材 (Material)、仕上げ (Finish) を通じて、製品の質感や世界観をつくり出すデザインのこと

## カリキュラムの特徴

デザイン研究科のカリキュラムは3つの要素で構成されています。

**01**  
特論科目

各デザイン分野に対応した少人数制の専門科目により構成されます。学生は、各特論科目の履修を通じ、高度な専門知識の習得を図ります。また、学際的な研究能力を高めるために分野を横断する科目履修を基本とします。

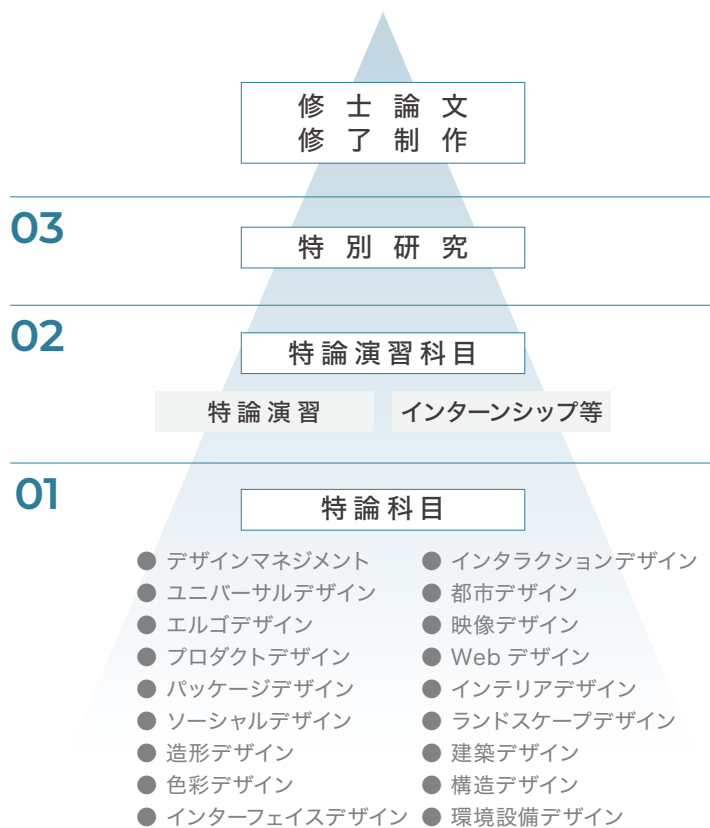
**02**  
特論演習科目

特論演習やインターンシップ等により構成され、特論科目の学修内容を深化・発展させるとともに、実践的な能力を身につけます。特論演習は各特論科目に対応して開講され、学生は、各自の研究計画に沿って科目を選択して履修を進めます。

**03**  
特別研究

指導教員の指導のもと、大学院在学期間を通して研究活動を推進し、その成果を修士論文または修了制作としてとりまとめ、2年次後期に提出します。

デザイン研究科において、所定の単位を修得すれば、一級建築士免許登録要件の実務経験2年として認められます。



## 修士論文・修了制作テーマ (2025年度実績)

- 一富士市の魅力を発信するデザイン手法の提案（富士市に伝わるかぐや姫伝説を認知向上のメインコンテンツとする）
- コンテキスト指向を用いた「成長するポートフォリオ」の構築手法～WordPressのヘッドレス化による、個人制作資産の長期的運用と多面的展開～
- 静岡県の場所性から構築する住環境デザインの研究  
— 県西部・新居地区を対象とした、生業の場を伴う住空間の設計 —
- 自然と共存するための「防災スタイル」を日常に取り入れた教育施設に関する研究
- 建築への風景の取り込み方に関するデザインアプローチの研究
- 光害問題に焦点を当てた子供向けデジタル絵本に関する研究  
— デジタル絵本と紙絵本の光害認識促進効果の比較検証 —
- 藍文化の周知における文化体験空間の提案  
— 新たな藍体験に資する布による喫藍空間を事例に —
- 誰もが心から安心できる住宅  
— 耐震診断に焦点をあてた一般向けツールの制作 —
- 燕三条地域の地場産業における認知向上のためのコミュニケーションデザインの研究



※修士論文・修了制作要旨は静岡文化芸術大学学術リポジトリをご参照ください。

# デザイン研究科教員紹介

\*は修士論文の研究指導教員

▲は2027年3月で退職予定

■は2028年3月で退職予定 以下50音順

## 中野 民雄 教授/デザイン研究科長\*

専門：建築環境・設備計画/環境デザイン/設備設計/サステナブル建築/環境教育/  
BCP/LCP/BIM

「環境」「サステナブル」「空間演出」「ディスプレイ」「五感」「心理」「防災・減災」をテーマに、地球・都市・建築などの「空間」を通して、設計・デザイン・研究を行っています。自分の頭で考え自分の足で行動するフィールドワークを大切に、社会で活躍できる人材を育成しています。

## 岩崎 敏之 教授\*

専門：建築構造計画/構造デザイン/構造設計

構造物をモデル化して取り扱う建築構造学の考え方に根ざしてデザインと向き合うことに取り組んでいます。伝統建築、耐震補強、人と人をつないでいく社会実験など、多様なことがらに関わっています。建築構造学の考え方の基本を踏まえてデザインについての探究を深めていく取り組みへの支援をすることができます。

## 植田 道則 教授\*

専門：建築・インテリア設計/人間-環境系の内外空間デザイン

人材育成と社会貢献、その礎として「感覚的領分」の研究を大切にしています。感性と美意識を統合し、自分らしい空間を創出する力はデザインの核心です。本研究室は、ポートフォリオ指導、ゼミ研究活動、資格取得支援を通じ、確かな専門性と豊かな感性を備え、社会に貢献するデザイナーを育成します。

## 小川 直茂 教授\*

専門：グラフィックデザイン/情報デザイン/  
インフォグラフィック/基礎造形

高度情報時代における情報表現と情報伝達のあり方について、視覚デザインを中心とした研究・制作に取り組んでいます。「情報の見やすさ・分かりやすさ・伝わりやすさ」に関する論理的な分析や柔軟な発想を経て、これからの社会に求められるビジュアル・コミュニケーションを一緒に追求していきましょう。

## 小浜 朋子 教授\*

専門：ユニバーサルデザイン(高齢者・コミュニケーション・視覚情報・色彩・環境心理)/デザイン方法論

多様な人々の特性や行動と、コミュニケーション、モノ、環境のデザインとの関係性を対象に研究しています。論理的な思考プロセスを重視し、細やかな分析を通して、これからの社会に求められるインクルーシブなデザインの提案を行います。AIでは見いだしにくい心理的な潜在ニーズと視覚認知の探求をモットーとしています。

## 亀井 暁子 教授\*

専門：建築計画/建築デザイン/建築設計/建築設計実務/教育空間/  
建築意匠論/地域のデザイン/サステナブルデザイン

地域との協働プロジェクト等を題材としながら建築設計・空間設計について実践的に取り組みます。実際の空間は、私たちの身体から建築・都市までひとつながりです。様々なスケールを歩き、その場所/周辺環境、その他様々な要素を読み解き、人の行為とつながり空間化する手法と考え方について学びます。

## かわ こうせい 教授\*

専門：絵本/イラストレーション

絵本は、ひとが人生の最初に出会う視覚メディアであり、その後の人間づくりに大きな影響を与えるため、人類の美と観智の結晶が最高の形で注ぎ込まれています。総合芸術である絵本の研究制作を通して、イラストの表現力や伝える力を磨くとともに、普遍的価値や人類の知恵に触れることができるでしょう。

## 佐井 国夫 特任教授\*▲

専門：グラフィックデザイン

視覚言語としてのビジュアルコミュニケーションデザインやパッケージデザインの新たな表現形態とその展開について研究をしています。現代社会のパッケージデザインの意味と今日の課題でもある環境問題について皆さんと一緒に考えましょう。

## 迫 秀樹 教授\*

専門：人間工学/生理人類学/エルゴデザインおよびその検証手法に関する研究

種々の機器においてどのようなユーザが使用するのかを想定し、その使い勝手や負担などを調べることによって、ユーザにとってより良い体験を提供するという狙いをもって研究をしています。そういった観点からユーザを調べる手法について指導しますので、より良いデザインを目指してください。

## 高山 靖子 教授\*

専門：プロダクトデザイン/デザインマネジメント  
(地域・福祉)/国際デザイン教育

地域社会をプロダクトとサービスで結ぶ研究を展開。ローカリティを重視し、ユニバーサル・インクルーシブデザインの社会実装を目指します。指導では、プロダクト・サービス・システムデザインの実践に加え、社会的な波及効果を見据えた「導入マネジメント」の具体的な手法についても研究・指導します。

## 服部 守悦 特任教授\*■

専門：トランスポートデザイン/プロダクトデザイン  
移動機器と、それを取り巻く各種のプロダクトデザインやサービスデザインについて研究しています。100年に1度の変革期と言われる今、次世代モビリティの普遍性と革新性について考え、それがもたらす新たなライフスタイルや体験価値、交通環境の未来についての研究を指導します。

## 花澤 信太郎 教授\*

専門：建築計画/都市デザイン/建築デザイン/  
建築設計/都市空間の分析と研究

日本には豊かな空間デザインの伝統があります。この蓄積をふまえながら、つぎの世代への価値ある提案を行うために、研究室では、見ることで、考えること、手を動かすことのトレーニングを繰り返し行いたいと思います。

## 藤井 尚子 教授\*

専門：テキスタイルデザイン・テキスタイルアート/  
染織文化研究

テキスタイルデザイン/アート、染色(防染・捺染・媒染)を手がかりとした社会文化史を研究しています。テキスタイルが関わることで生じる新たな「場」や「感動」を生み出すデザインのポテンシャルについて、色・模様・素材・技法等の造形的特性や、布をめぐる社会的意義や文化的側面から指導を行っています。

## 的場 ひろし 特任教授\*▲

専門：インタラクションデザイン/メディアアート

「インタラクションデザイン」と「メディアアート」は、異なる分野のように見えても深く関連しており、新しいタイプのクリエイター達が二つの分野を自由に行き来し、ユニークな成果を作り出しています。皆さんもこれからの分野の考え方や技術を身につけて、新しい成果を創出し、世界に発信していきましょう。

## 和田 和美 教授\*

専門：ウェブデザイン/メディアアート/映像企画演出/  
グラフィックデザイン

映像やウェブ、ゲームなど、視覚メディアにとどまらない新しいコミュニケーションテクノロジーを守備範囲としています。ARやVRといった拡張現実もまだ見ぬアイデアの宝庫です。ユニークな発想で横断的に色々な分野を巻き込みながら、デジタルミライを世界に発信していきましょう！

## 小田 伊織 准教授\*

専門：漆芸/木工芸/クラフトデザイン

漆芸および木工の分野を中心に、素材の特性と伝統技法の理解を基礎としたデザインおよび造形表現について研究しています。修士課程の研究指導においては、実制作を通して素材と技法への理解を深め、現代的視点によるデザイン展開と、自立した研究・制作能力の修得を目指した指導を行っています。

## 丹羽 哲矢 准教授\*

専門：建築計画/建築デザイン/建築設計/建築設計実務/建築意匠論/  
設計プロセス論/ランドスケープデザイン/地域のデザイン

空間体験者の心理的側面を建築空間や設計プロセスに取り込むための手法を研究しています。研究指導では人間の認知構造の知見を深めることと、建築空間の事例研究および現地での観察を基にした調査を踏まえた上で、具体的に実践的な設計過程を繰り返すことで、独自の設計手法への気づきが生まれるよう指導しています。

## 百束 朋浩 准教授\*

専門：映像学/映像表現/映像制作/映像技術/  
視覚効果

映像は、理論と実践、芸術と科学といった領域を横断する学際研究が必要であるとと考えています。映像は総合芸術であり、映像を作るには科学技術とそれを使いこなす手法を学ぶ必要があります。新しい制作手法や技術は新しい表現の実現には必要な要素であるとと考えています。

## 松江 幸子 准教授

専門：プロダクトデザイン

未来志向の視点を基盤に、製品・サービスデザインにおける新たな価値創造の実践研究を行なっています。修士課程では、デザインを俯瞰的かつ高次の視点から捉え直し、各自の志向性に応じ思考・構想・表現を統合しながら、応用力と独自性の深化を目指した指導を行います。

## 宮地 良治 准教授\*

専門：UX/UIデザイン/プロダクトデザイン

ライフスタイルの大きな変化による新たな生活の困り事や社会課題に対して、デザイナーにはその発想力を活かした解決を求められています。UX/UIデザインの観点で課題を解決し、新しいサービスの価値創出に取組んでいきます。

◎ 大学院を受験する際は、大学院募集要項により、指導教員と指導領域を確認した上で、指導を希望する教員に事前相談をしてください。

\*2026年度に在籍している教員を掲載しています。

# 2027年度 募集概要

詳しくは、大学院学生募集要項をご確認ください。

## 専攻及び募集定員

研究科	専攻	定員	修業年限
文化政策研究科	文化政策専攻	10人	2年※1
デザイン研究科	デザイン専攻	10人	

※1 本学では、修業年限を3年とする長期履修制度を設けています。職業を有している等の理由により、申請し、許可された場合に対象となります。  
詳しくは、学生募集要項をご覧ください。

## 入試日程・試験会場

試験会場：静岡文化芸術大学（全日程共通）

日程	出願期間	試験日	合格発表	試験実施研究科	
				文化政策	デザイン
A日程	2026年8月20日(木)～8月28日(金)	2026年9月15日(火)	2026年9月24日(木)	○	○
B日程	2027年1月4日(月)～1月12日(火)	2027年2月6日(土)	2026年2月12日(金)	○	○

(注) 複数回受験可。なお、日程は変更になる場合がありますので、公式 Web サイト等により確認してください。

## 初年度学費等

両研究科共通		県内者	県外者
	入学料	141,000円	366,600円
	授業料	535,800円※2	535,800円※2
	学生教育研究災害傷害等 保険料	2,430円	2,430円
	校友会費	40,000円	40,000円
	初年度納入金計	719,230円	944,830円

(注) 上記は2027年度予定です。変更になる場合がありますので、納入金額は入学手続き時に確認してください。

※2 「専攻及び募集定員」の※1の長期履修制度を利用して修学する場合は、授業料が357,200円となります。

〈問い合わせ先〉 静岡文化芸術大学 入試室 **Tel.053-457-6401**

〒430-8533 静岡県浜松市中央区中央2-1-1

E-mail nyushim@suac.ac.jp



静岡文化芸術大学

SHIZUOKA UNIVERSITY OF ART AND CULTURE

◎JR浜松駅より徒歩15分 ◎遠州鉄道「遠州病院駅」下車、徒歩8分  
◎遠鉄バス「文化芸術大学」下車